

灰色の

一九一七

灰色がかったオパールを見ると

私は思い出す、美しい灰色の双眼を――。

見たのは、そう、二十年のむかし。

愛しあつたのは一十月。

きみは消えた。スミルナに行つたとか。

行つて再び会わなかつた。

あの子がまだ生きていても、

灰色の眼の魅惑はそのうち尽きるだろう。

美しい顔も損なわれてしまうだろう。

記憶よ、むかしどおりにあの眼を保てよ。

そして記憶よ、あの愛の、かけらなりとも取り戻せるならば、

ほんとうに何でもいいから今宵戻せよ。

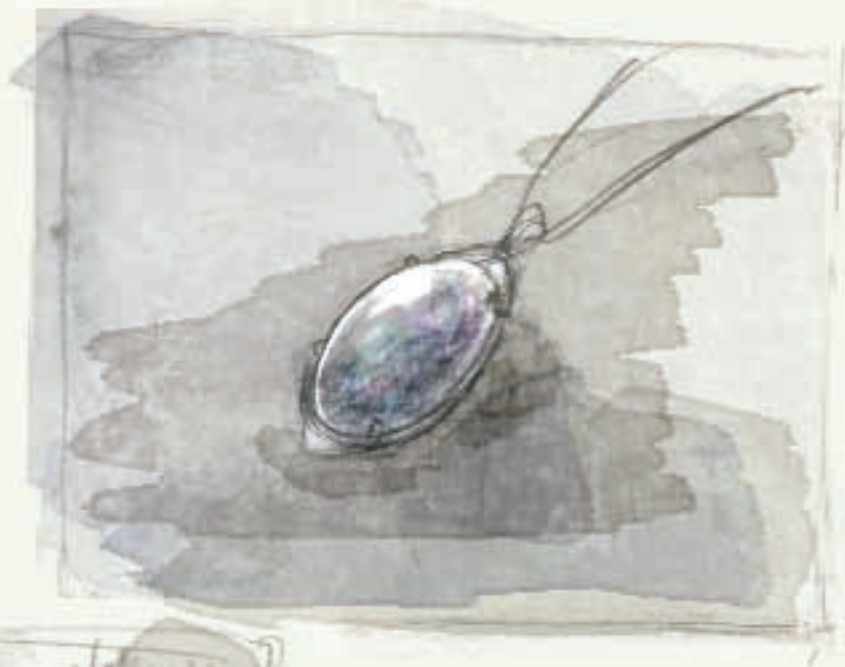
・スミルナの悲劇 (1921)

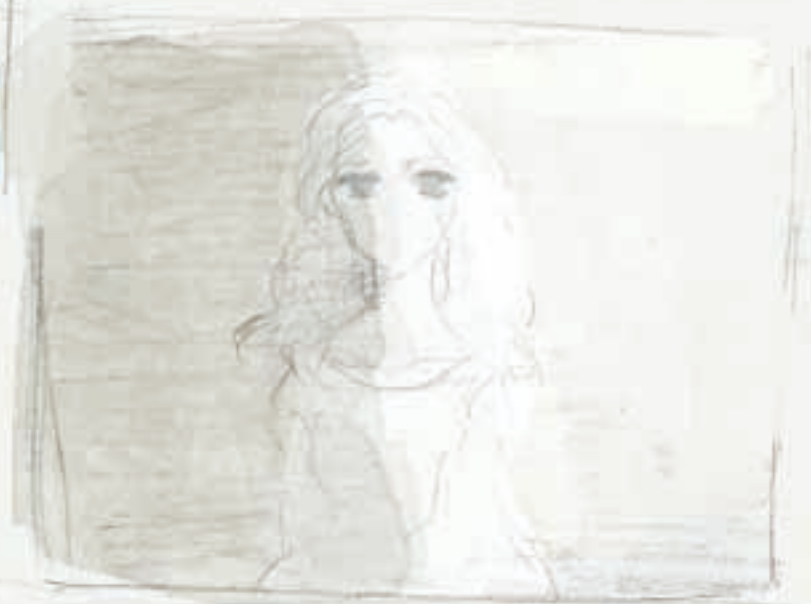
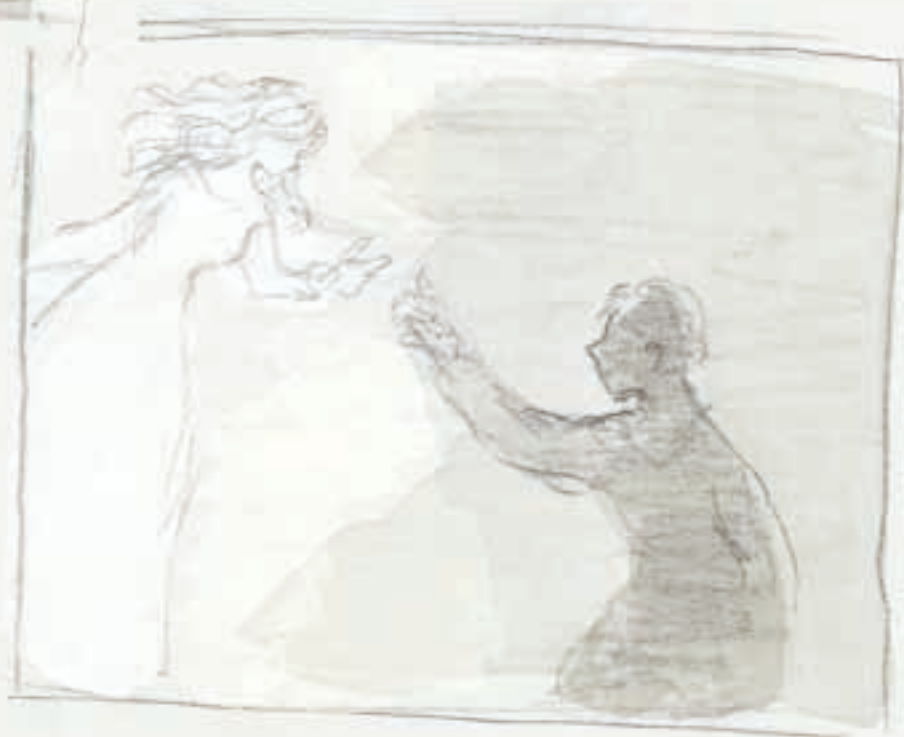
・灰色の目・北の方の特徴? 日差しに強い

・ギリシャ人

・1917年は、ギリシャバトルと敵対関係に入った年。

・スミルナにはギリシャ人が多く住んでいたらしい。



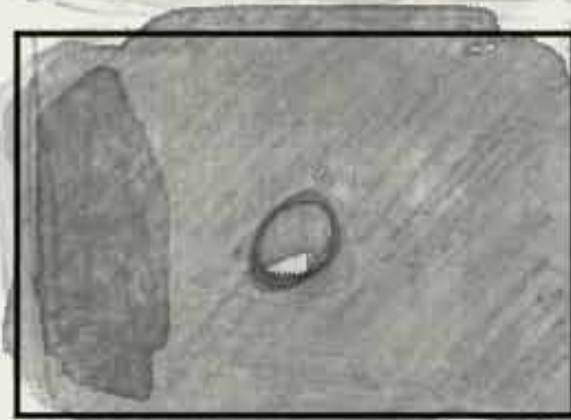




オパール



手に取る男性



オパールが女性の目になる
(表現方法どうするか)



回想シーン



近づいて手を取り合う



抱きしめる
(大きく一回転する)



手を離す
女性は画面から消えて行く



港町っぽい(スミルナの街)
を背景に女性が消えて行く
かんじ

再び窓辺の男性



目の前に幻の女性
(ぼんやりしてる)



目を細める



女性は消える

- ・女性の目を強調したい
- ・女性=白 男性=黒のイメージ(暗闇でよく見えない?)